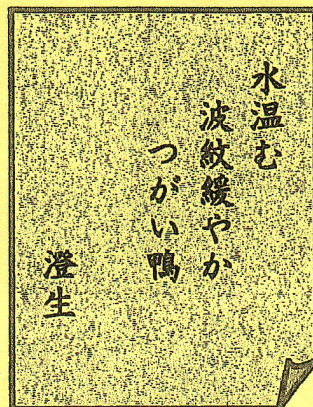


郷土酪農の開祖 山田致人^{むねと}

大野の酪農の先駆者は山田致人（1846～1920、愛媛県人）で開拓使に仕えたが明治11年(1878)官を辞し、向野観音山に入植し28町歩の牧場を開き乳牛など飼育し酪農を開始した。

しかし、当時の人には受け入れられず、牛乳の販路は広がらなかった。その後館村へ移った。

牛に飲ませるため掘って水を蓄えた池が残った。



養鯉園を開いた 中村長八郎

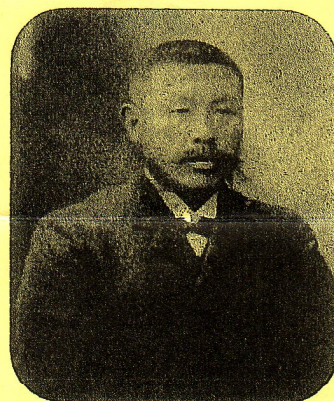
中村長八郎(1868～1931)は、植林の功労者で初代大野郵便局長の中村長兵衛の長男として生れた。

父の郵便事業を手伝う傍ら、山林管理に当たった。

明治37年道議会議員に当選し一期勤めた。後に二代目郵便局長となり、村会議員にもなった。

長八郎は養魚に興味を持ち、大正15年(1926)頃、山田致人が残した池を拡張整備し、鯉を飼い

鯉料理で収益を得る目的で曲久養鯉園かねきゅうようりえんを開いた。だが昭和6年(1931)志し半ばにして亡くなった。いつしか“八郎沼”といわれるようになり住民の憩いの場となった。



昭和25年(1950)、大野村では霊場観音山、八郎沼一带を道路、植樹、休憩舎等整備し景勝地にする計画はあったが、実現には用地確保など困難さが付きまとい頓挫した。

時を経て大野町が取得し昭和50年(1975)より公園造成工事を5年計画で取り組んだ。

先人の夢が甦り初めて大野町に八郎沼公園でき、住民の憩い、散策、遠足、イベント会場として今日に至っている。

